

## 伊那市 官民共創の新しいまちづくり協議会

会議名	第18回 まちなかエリア高度化WG			
開催日	2025年12月11日(木)			
開催時間	開会	18:00	閉会	19:35
開催場所	市役所3階 303会議室 オンライン併用			
出席者				
協議会・WGメンバー	会場：黒河内貴氏 ○L：政金裕太氏、土田智氏、瀧内貴氏			
事務局・職員	会場：企画部企画政策課 織井邦明課長、有賀慎課長補佐、 村田和也新産業技術推進係長			
関係者	—			
欠席者	志知貴文氏、鈴木孝之氏、細谷啓太氏			
議事	1、11/30(日)「対話・つながり・実現の場」振り返り 2、次回「対話・つながり・実現の場」講師について			

議事項目	概要	次のステップ
1、11/30(日)「対話・つながり・実現の場」振り返り		
11/30(日)「対話・つながり・実現の場」の振り返り	<p>&lt;11/30(日)の「対話・つながり・実現の場」での各グループでの対話内容について、「開催報告」を元に共有&gt;</p> <p>1 「歩きたくなるまちってどんなまち？」 －事務局より説明－ ○WGメンバー ・「緑地化」、「ガーデン」、「緑がある」という要素と、やりたいこととして挙げられた「歩行者天国」をうまく組み合わせられればよいと思う。</p> <p>○WGメンバー ・報告書をもう少ししっかり分析すると、すごくよいデータになる。我ながらよい質問をしたと思う。 ・誰に講師をお願いするとしても、どんな対話から、どんなキーワードが出たかを事前にお伝えし、コンテクストを理解していただいた上でお話ししていただく必要がある。そう考えると次回「対話・つながり・実現の場」まであまり時間がない。</p> <p>2 「情報が集まる場所・方法は？」 －事務局より説明－ ○WGメンバー ・伊那小のママがやっているLINEグループというのは非常に面白いと思った。</p>	

	<p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・伊那小ママの LINE グループは、現在の 120 人～130 人くらいの規模であると誰かのつぶやきに対して主体的に情報が集まるという理想的な状況ができているが、1,000 人や 10,000 人という規模にならまちなかで機能するのか、そういう規模感の大を知っている人がいれば話を聞いてみたい。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・伊那小ママの LINE グループは、非常に可能性を感じる。保護者同士という安心感もあってうまくいっていると思うが、知らない人同士がたくさん参加しているようなグループになったら発言できるかという不安もある。そういうグループをうまく運営している成功事例があれば、関わっている人の話を聞いてみたい。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「伊那小のママ」という関係性のように、例えば「お酒を飲みに行く」というカテゴリー、関係性に紐づいた LINE グループがいくつか立ち上がるのは理想であるし、それをプラットフォームとして見守っていくこともあるかもしれない。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分は犬を飼っていないが、なぜか犬を飼っている人が 158 人参加している LINE グループに参加している。その LINE グループは週 1 回散歩会をしたり、伊那スキーリゾートを貸し切りにするなどして年 1 回イベントをおこなったりしていて、参考になるかと思う。</li><li>・共通のカテゴリーや趣味の LINE グループでなく、戦略的に LINE グループを運営して、実際のまちづくりにつなげている人がいれば話を聞いてみたい。</li><li>・LINE はほとんどの人が使っているアプリケーションで使いやすさもあり可能性を感じる。</li></ul> <p>3 「次世代のまちづくりへの関わりって？」</p> <p>-WG メンバーより説明-</p> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・シェアサイクルの話題が盛り上がった。文化エリアと商業エリアをつなぐルートとして、信州大学、伊那北駅、高遠の 3 エリアが浮かび上がってきた。</li><li>・“おじさん”世代からは、「昔強制的に連れていかれたバーが面白くて 1 人で通うようになった。人間関係の中で自主的に始めたものでないコトから出会い</li></ul>
--	---

	<p>があり、コミュニティがつながった」と楽しげに話しているのが印象的だった。</p> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・信州大学生がまちに下りてこないという話があったが、富山大学でも同じように大学周辺で完結しているという課題があるため、まちなかにシェアハウスを作り、シェアハウスの1階をレストラン、隣にコインランドリーを設け、大学生とまちの人との関わりを作っている。そういう仕掛けがあると交流が生まれるのかと思った。</li></ul>	
2、次回「対話・つながり・実現の場」講師について		
次回「対話・つながり・実現の場」講師について	<p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・講師候補に大学教授の名前が挙がっている。その大学教授の生徒だった方が参加者において、地域の人が集まるカフェのような場づくりを自分でしたいと話していた。具体的に何か「やりたい」人が出てきたなと思いつらしかった。自分が出した意見で市が動いて次の「対話・つながり・実現の場」が設定されるとなると、市との関係性も作れて活動しやすくなるのではないかと思う。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・私も具体的に何か「やりたい」と言っている人の活躍の場を用意してあげられればいいなと思っている、次回「対話・つながり・実現の場」の講師としてその大学教授にお越しいただければ非常にわかりやすい最初の一歩になると思う。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・その大学教授の生徒だった方は、大学のゼミ活動を通して、当初はまちづくりに関心がなかったが、ゼミで活動するうちに自分でもまちづくりに関わりたくなったと話していた。そういうストーリーも込みで紹介していくとモデルケースとしてよいと思う。</li></ul> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・その大学教授の生徒だった方は、小学校の時の体験で上牧の里山プロジェクトに参加したのがよい経験だったとも話していた。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・伊那市の市民性として、講演会等の際に、一定の著名人でないと参加者は集まらないのか、内容によっては著名人でなくても参加者は集まるのか。</li></ul>	

	<ul style="list-style-type: none"><li>・予算面も含め、著名人を呼べるのであれば、2部構成にして、1部で講師の話を聴いた後に、2部で講師を交えて事例研究ができればよいと思う。</li><li>・自分が伊那市で関わった講演会等では、著名人しか呼んだことがない。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・伊那市で著名人を講師として呼ぶと、遠方から参加者が集まるイメージがある。どちらかというと内容重視の参加者が多い気がする。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・知る人ぞ知る講師だと、仮に長野市であつたら参加者が集まる気がしない。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・これから、多世代、多様な人たちがまちなかで情報を集めたり発信したり、人が集まる場をつくっていくと思う。</li><li>・話を聴きたい講師として名前の挙がっている方は、「具体的なコトをどうつくっていくか」に長けている方が多いと思う。その手前の「まちをどうするかをみんなで考えていこう」みたいな話もしたほうがよいのではないか。</li><li>・次回「対話・つながり・実現の場」がさらに前に進めるための作戦会議だとすると、例えばウォーカブルなまちをつくるならば、どういう制度があって、どういう整備をしていくかという話ができればよい。そこから多様な話につながっていけばよい。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・そういう意味では、俯瞰で見ていらっしゃる講師の方も候補としてお名前が挙がっている。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・他自治体のまちづくり事例を聴きたいという話も挙がっていたが、自治体規模が違うと参考にならない。伊那市と同じ規模の自治体を考えたほうがよい。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・俯瞰するという意味では、社会実験をしながら場づくりをしている例があり、伊那市の官民共創の新しいまちづくり協議会が目指しているリビングラボに近いと思う。そういう方に来ていただくのはよいと思う。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・リビングラボ系を研究している大学の先生は規模感としてはちょうどよい気がする。「公園」まで個別</li></ul>
--	---

	<p>具体的でなく、「都市計画」ほど広すぎず、いくつかの比較事例を持ってお話いただける方がよい。</p> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・民間主導のまちづくりが広がらないボトルネックは人なのか金なのか。今までのまちづくりの話は人の話中心だと思うが、プレイヤーがたくさんいるのに開発が進んでいかないのは金の問題があると思う。</li><li>・ソーシャルビジネスやファイナンスの話をまちづくりと併せて考えている人からヒントをもらうのがボトルネック解消につながり、夢物語に終わらないのではないか。</li><li>・商店街だけではビジネスは成立しない。ビジネスモデル構築のアイデアが不足しているのではないか。</li><li>・例えば信州大学生をターゲットにして、毎年何か1つや2つ動きが生まれ、長い目で見たら10年で2つくらいアクションが起きるという規模感を求めていっているわけではない。例えば長野市善光寺周辺で80軒くらいのお店が開店したとか、上諏訪町のリビセン周辺で30軒くらいのお店が開店したとか、そういうインパクトを求めていっているのではないか。</li><li>・このWGとして、作戦会議によって何が起きてほしいのか。前回からのプロセスに次回は講師の方が加わり、アイデアやきっかけをもらって、何か取組が生まれてほしいと考えているのだろう。もう1つLINEグループが立ち上がりがればよいだけではないはずである。</li></ul> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・前回「対話・つながり・実現の場」の「歩きたくなるまちってどんなまち？」グループでは「歩行者天国」というキーワードが出た。</li><li>・例えば毎週末通り町を歩行者天国にして、そこに魅力が生まれれば、人が集まり商売が成り立つ、イベントが開催されてビジネスが成立する。そういった循環が起きることを求めていいる。まちづくりの一つのきっかけが生まれることを求めていいる。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・あまり具体的な事例の話よりも抽象度の高い話をしてくださる講師の方がよいということであるが、次回を1月末に開催することを考えると、早く声を掛けて返事をもらってという現実的なスケジュールもある。</li><li>・「歩きたくなるまちってどんなまち？」か「次世代のまちづくりへの関わりって？」で具体的に話を聴</li></ul>	
--	---	--

	<p>きたい講師として名前の挙がっている方にお願いするのがよいのではないか。</p> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「次世代のまちづくりへの関わりって？」に特化してもよいかもしれない。「次世代」の話をし始めると「歩きたくなるまち」の話にもつながる。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「次世代」の「問い合わせ」は「歩きたくなるまち」や「情報」の話にまで及ぶと言っていたので、その順番は自然な気がする。まず「次世代」について考えて、次に「歩きたくなるまち」、「情報」に移っていくのがよいのではないか。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・鼎談形式で、大学教授、実践している方、前回「対話・つながり・実現の場」の参加者に参加いただき、最初に大学教授からまちづくりに関する広い俯瞰の話をいただき、その後実践している方に個別具体的な話をしていただく。それをもとにラップアップすると、ものすごく学びが深いと思う。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・大学教授を中心とした講師を第1案として、調整が難しい場合の別案も考えておきたい。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・講師の候補を WG メンバーの内 3 人で出し合ってみたい。</li><li>・次回「対話・つながり・実現の場」のニュアンスは理解できた。この場で講師を決めるには情報が少なすぎる。5 人くらい候補がいる中で次回「対話・つながり・実現の場」の建付けも踏まえて講師をピックアップしたい。</li><li>・3 人で Slack のチャンネルの中でやりとりをしていく。候補 1 人につき 1 コメント、1 リンクとし、他の WG メンバーもチェックしてリアクションをしてほしい。</li></ul> <td data-bbox="1060 222 1443 1790"><ul style="list-style-type: none"><li>・WG メンバーの内 3 人で、Slack 上でテキストベースで講師候補を挙げていただく。</li><li>・他の WG メンバーも Slack をチェックしてリアクションしていく。</li></ul></td>	<ul style="list-style-type: none"><li>・WG メンバーの内 3 人で、Slack 上でテキストベースで講師候補を挙げていただく。</li><li>・他の WG メンバーも Slack をチェックしてリアクションしていく。</li></ul>
--	--	---

## ■今後のスケジュール

### <次回 WG>

- ・12月18日(木)18:00～ 市役所1階103会議室横 Web Meeting Room (オンライン併用)

### <次回「対話・つながり・実現の場」>

- ・2026年1月31日(土)午後 市役所1階多目的ホール